

写真展「甲子園ホテル—人生の華と歓び」の会場構成に参加して

武庫川女子大学生生活環境学部生活環境学科 3 年 吉 田 紗 彩

はじめに

2016 年 11 月 14 日から 21 日までの期間に、甲子園会館において、甲子園ホテル時代の結婚式・披露宴の写真を集めた写真展が開催された。甲子プロジェクトはそれに協力することになり、黒田ゼミの一員である私は会場構成に参加した。開催までの経緯について報告する。特にキャプションの作成と展示方法については別途まとめる。

1. 経緯

● 9 月 30 日(金) 甲子園会館

写真展に向けて初めて私が参加した会議で、本格的に会場構成についての活動が開始した。すでに大体の写真が選択されていた。そこで会議では、写真展のタイトルや写真の展示方法（写真のグループ分け）など、写真展を開催するにあたっての軸を決めることを目的としていた。まず写真は、撮影された場所ごと（西ホール、南庭、屋上庭園、その他のインテリア）にグループ分けをして展示することになった。イーゼルが多数あったのでパネルを立てる部材を 2 つ用い、上に写真パネル、下にキャプションボードを設置することになった。

またタイトルは、「甲子園ホテル - 祝いの日」と決まったが、その後「昭和初期のレトロ感」と「結婚式と披露宴の歓び」が伝わりにくいのではないかとのことと、見直されることになった。学生や助手の方の賛同を得て、最終的にタイトルは「甲子園ホテル - 人生の華と喜び」に決定した。

● 10 月 21 日(金) 甲子園会館



図 1 写真撮影の様子

当時写真が撮られた場所が現在はどうなっているかを検討するために、甲子園会館に撮影しに行った。それをキャプションに載せて、写真展に来た人たちに、現実の甲子園会館をホテル時代の空間としても味わってもらおうことにした。

当時の写真をみて、場所がわかる写真もあれば、全くわからない写真もあったので、庶務課の宮崎さんに教えていただきながら撮影した。実際に戦前に同じ場所で撮影されていたと思うと、感慨深いものがあった。

- 11月2日(水) 第一学舎黒田研究室ゼミ室

キャプションボードを設営当日に短時間で簡単に設置できる方法についてゼミ内で検討した。これまでの検討で、印刷したキャプションをボードに張り、それらを「く」の字になるように別のボードにつないでイーゼルに固定することになっていた。いくつか案が出たが、最終的に結束バンドを用いてボードをイーゼルに固定するという方法を取り入れることにした。(図8) 詳しい内容は、P.28の「キャプションの設置方法」にて説明する。

- 11月4日(金) 甲子園会館



図2 最終チェックの様子

ゼミ生で作成したキャプションのチェックと、キャプションの設置方法のプレゼンを行った。

キャプションに展示写真について一言コメントを添えた方が、見る人の興味が湧くかもしれないという意見が挙がったので、それを取り入れることになった。

- 11月13日(日)

写真展開始直前にキャプションデータ完成。研究室助手の司馬さんに遅くまでかかって大型プリンターで印刷していただく。

- 11月14日(月) 甲子園会館

この日から写真展が始まるので、午前9時からゼミ生2人にも手伝ってもらって、設営準備のための作業をした。試行錯誤の甲斐あって、設営の作業はとてもスムーズに行うことができた。



図3 甲子園会館・生活美学研究所内の作業風景



図4 キャプションをボードに張り合わせる様子



図5 キャプションを設置する様子



図6 設営終了後の様子

2. 会場構成

甲子園会館の1階ラウンジが写真展の会場になった。

会場構成は、グループごとにイーゼルを並べて、入り口から出口までに無駄ができないように導線計画を立てた。入り口側から、西ホール→南庭→屋上庭園→インテリアの順で見られるようにイーゼルの配置した。(図7)

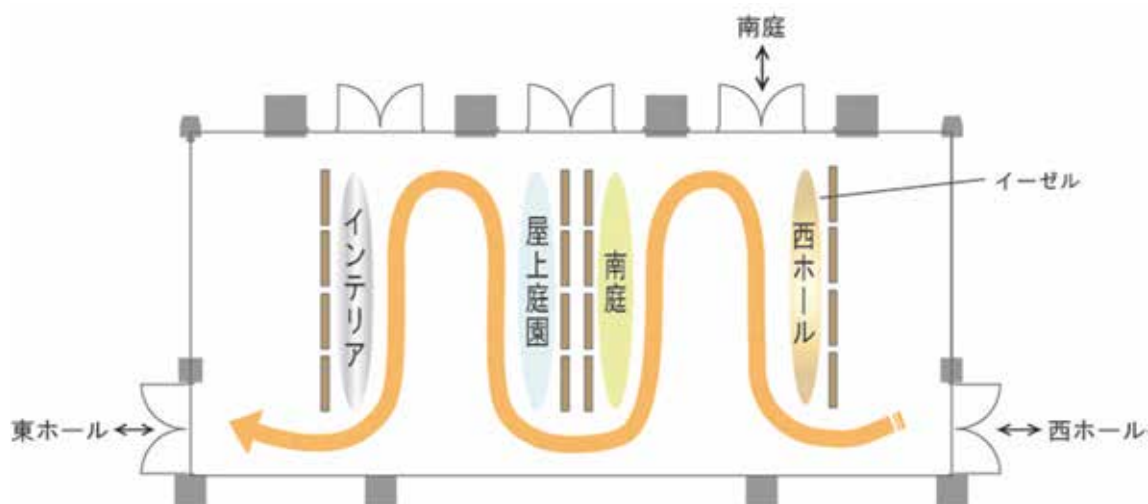


図7 ラウンジにおけるイーゼルの位置と導線

3. キャプションの設置方法

当初は、キャプションボードを写真パネルの下に1枚立てることになっていた。(図8左図) しかしそれではほとんど見てもらえない。そこで、2枚のボードが「く」の字になるよ

うに裏を養生テープでとめて、養生テープでイーゼルに固定することにした。(図8右図)しかし、これでは設置した翌日にはイーゼルからキャプションが剥がれ落ちてしまった。そこで、イーゼルに固定するものを養生テープからタコ糸に変えた。その場合は、キャプションボートがイーゼルから剥がれ落ちるという問題は解決されたが、設置するのに時間と手間がかかるという問題が出てきた。最終的には「1. 経緯」の「11月2日」の項目で述べた、結束バンドを用いてイーゼルに固定する方法を取り入れた。(図9)こうすることで、時間が経っても剥がれ落ちることがなく、設置も短時間で簡単にできるようになった。

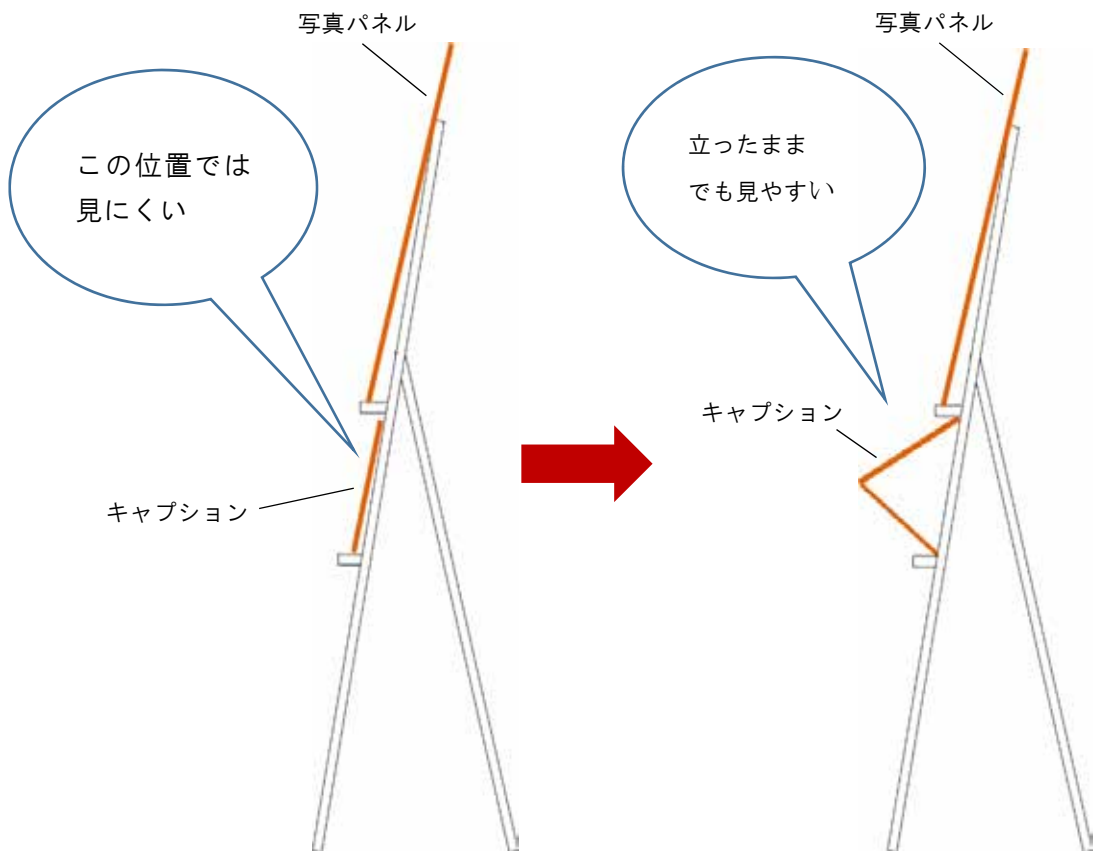


図8 当初の案と最終案の違い

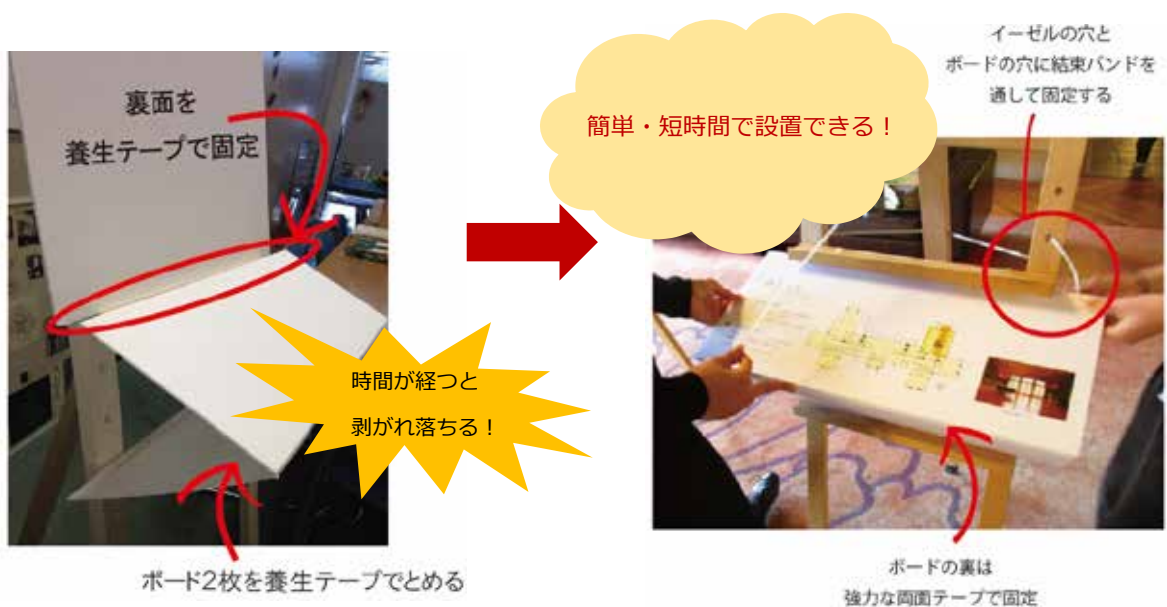


図9 キャプションを固定するための工夫

4. キャプション作成について—内容とレイアウト—

キャプションは全て、私たち（黒田研究室ゼミ生）で作成した。この写真展の目的は、作品として写真を鑑賞してもらうのではなく、ホテル時代の空間に想いを運んでもらうことにある、と捉えた。そこで図 10 より、左側に展示写真（図 10-A）の説明（図 10-B）、中央にどの場所で撮影されたかを示す図面（図 10-C）、右側に当時の撮影場所は現在どのようになっているかがわかる写真を載せた。（図 10-D）

まず初めに、甲子園会館の図面のデータが見やすくなるように、illustrator で余分な線を消したり、色を付けたりした。さらにその図面に、どの場所で撮影したかが分かるように印を付け、カメラの画像を切り抜いて張り付けた。次に、展示写真の説明にコメントをいれ、現在の様子を撮影した写真を挿入した。また、アップで見せたいところは、その部分だけ切り抜いて見やすくする工夫をした。（図 10-E）最後に、全部で 16 枚のキャプションのバランスをみて、図面の大きさや文字の位置などの調節をして完成させた。

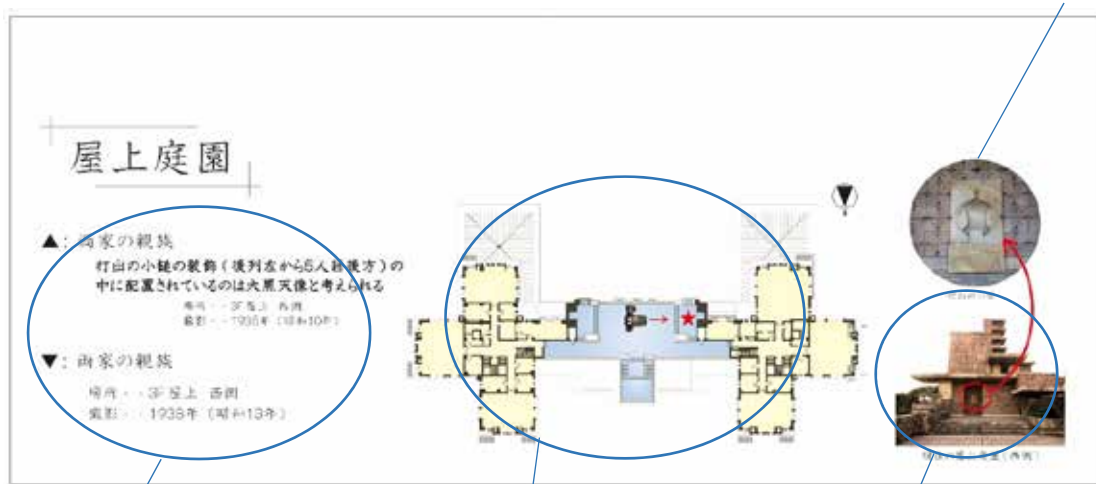
図面は、大林組設計部によって作成されたもので、AutoCAD のためどの線も同じ太さで描かれていた。それを見やすくするために、柱・壁・段差などを必要に応じて塗りつぶした。内部空間、外部空間、庭などに色を付けてさらにわかり易くした。

展示写真のために作成したキャプションを図 11～14 に示す。



A : 展示写真

E : 特に見てもらいたい
箇所は大する



《その他の写真グループのキャプションの例》

B : 展示写真の説明

（撮影された年と場所を記載）
写真に関する一言コメントも付けた。

C : 甲子園会館の図面

撮影された場所がどこかわ
かるように

D : 当時の撮影場所の
現在の様子

図 10 実際の写真とキャプションの一例

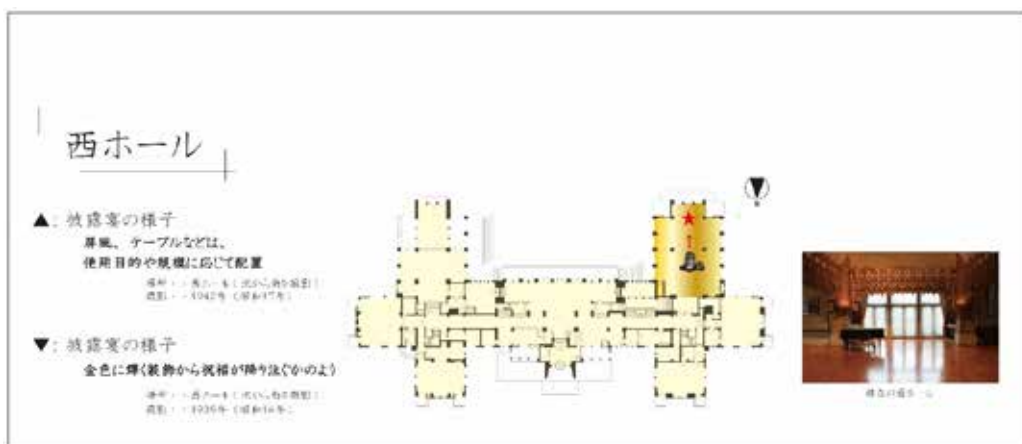


図 11 西ホールキャプション

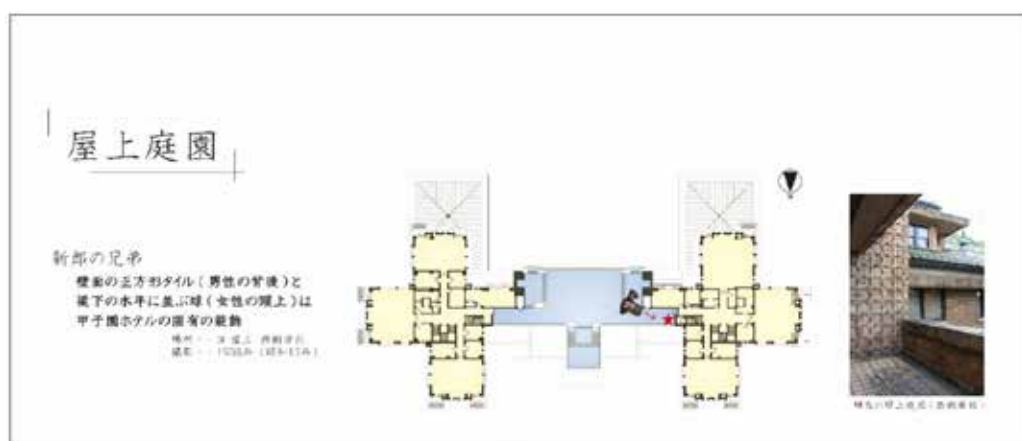


図 12 屋上庭園キャプション



図 13 南庭キャプション

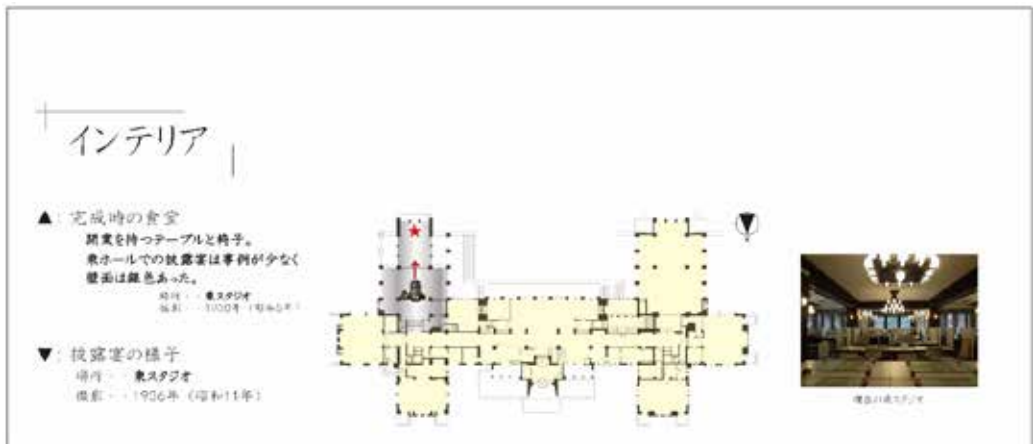


図 14 インテリア（東ホール）キャプション

5. 写真展の来客者感想とご意見

写真展に来られた方々は、「歴史を感じて感銘を受けた」「写真が今まで保管されていて驚いた」「当時の写真が懐かしく見えた」「戦前の華やかな時代があったことに感心した」「当時の写真を見て、今との違いを実感した」「昔の身近な風俗に触れる機会はありませんので面白かった」「心が和んだ」など、様々な感想を挙げられた。

ご意見・ご要望は、「もう少し多様な写真が見たかった」「もう少し解説文があるとよかった」「昔の結婚式の様子以外に、宿泊部屋の内装などの写真も見たかった」「当時の食事も知りたい」「キャプションが間違っているところがあった」「建設途中の写真なども見たい」などが挙がっていた。次回の写真展に向けて参考・励みになるものだと思う。

6. 写真展を終えて

写真展の準備期間は1か月半と短く、限られた時間内での作業は忙しなかったように感じた。しかしこの写真展の準備に参加したことによって、何かをつくっていく大変さや楽しさ、充実感や達成感を得ることができたので、とても良い経験をした。

私たちの主な作業は、写真のキャプションを作ることだった。特に力を入れたところは図面である。複雑な図面を一般の方でも見やすい図面になるように編集した。この作業をするまでは、CADのデータをどのようにしてillustratorで編集するのもわからない状態だったので、それを調べるところから始まった。とても大変な作業だった。デザインやレイアウトなども考えて、なんとか完成させた。しかし、完成したキャプションを実寸で展示すると、どのように見えるのか、本当に見やすいキャプションになっているか不安がたくさんあったが、実際に会場に設置してみると思ったより形になっていて、お褒めの言葉

もいただきとても安心した。出来上がった展示空間は、昔の白黒写真がラウンジの雰囲気
に馴染んでいた。(図 15 と図 16 を挿入) また、16 枚の展示だったが、少なすぎず多すぎな
いちょうど良い量の写真展だったと感じた。

この経験を今後を活かしていきたい。



図 15 設営終了後の展示会場



図 16 写真展開催期間中の会場風景